

対話集会

1. 開会
2. 町長あいさつ
3. 説明
4. 質疑

【新中学校建設費用について】

町 民：まず将来負担比率を説明されて、今から良くなって改善していくという話がありましたが、この中には、中学校の新築工事、増穂小学校の大規模改修の費用が入っていますか。

町 長：想定して入っております。

町 民：そこで心配なのが、中学校を新築する工事費は、単価を平米いくらぐらい見込んでいるのか、確認したい。まず中学校の新設するところの財源を大枠で説明してください。

町 長：これまでのシミュレーションにも入っていましたが、中学校は旧増穂商業高校校舎を改修するという予定でした。改修費用にもろもろ外構と併せて、10億から15億くらいかかるということでした。10億、15億かけて改修しても、実はあの躯体は10年ぐらいしかもたないのです。

ですから、15億かけて改修するより、例えば今20億、25億ぐらいになるかもしれませんが、25億ぐらいかけて、50年60年もつような校舎を新築で作ってあげたいということが、私の思いです。

もう計算すればわかると思いますが、10年で10億、15億よりも、60年で20億25億の方が、年間のコストは安くなります。ですから、その当初のシミュレーションより経費削減をしたいと思っています。

ですから平米単価いくらかという議論より、全体的な経費の削減、そしてしっかりと中学生の体つき、富士川町の教育コンセプトに合った新しい校舎を作ってあげることができるといふ認識でいただければと思います。

町 民：そうではなくて、私は総工費を大体いくらで見込んでいるのかと言っている。私が調べたところ、忍野小学校が、鉄筋コンクリート造で3階建てで作っています。これが令和4年に着工していると思いますが、そのときの平米単価が46万くらい。そして、身延中学校が、これも着工が令和4年ぐらいだと思いますが、これが55万くらいかかっています。令和4年の時点で。

うちの町は、工事に着工できるのはいつぐらいを予定していますか。

司 会：現在、新中学校につきましては、基本設計を策定している最中になりますので、そういった平米単価は示されていない状況です。

町 民：それで心配しているのは、令和7年に着工できなくて、設計が令和7年。そうすると、建築費がますます上がっている中、とんでもない金額になるし、工事期間中にも金額がどんどん上がっていく、もうそういう状況です。そうすると、果たして今のシミュレーションでいけるのかどうか、その後、小学校の改修があるわけでしょう。そうすると、このシミュレーションでは合ってこないのではないかと、心配している。

町 長：大枠の話ですが、中学校はどうしても必要ですから、これは作らなきゃいけない。先ほど話したより10年で、15億と、60年で、例えば今プロポーザルに出したのが20億ぐらいで設計してください、それが物価高になっているので25億とかそのぐらいの金額になってくる。それを60年で割っていただければ、当初のシミュレーションよりも財政負担は減っていく。それを毎年毎年払っていく。そのローンの部分が少なくなるっていう考え方でいいと思います。

逆に質問させていただきますけど、中学校校舎どうするんですか。

町 民：作ることは賛成で、シミュレーションが違うんじゃないかとを言っています。

【信号設置と生涯学習を行う場について】

町 民：いま、とても大きなビジョンを聞かせていただき、富士川町は大丈夫なんだとちょっとだけ安心しました。

もっとずっと小さいことですが、2点お願いがあります。

図書館の出入口付近に、南北の旧 52 号の信号がありますが、図書館から出るところは、信号が見えません。とても危険だと思いますので、せめて感應式の信号機だけでもつけてもらいたいという要望です。

もう一点。町民憲章に、共に働き学び合いと提唱されていますが、学び合いの場所が足りません。今、使えるのがこちらの町民会館で、曜日によっては使えないので、借りるのに大変な思いをしています。

そして、発表の場や研修を行うホールですが、はくばく文化ホールほど大きくなく、例えば集客の 150 人くらいの、こぢんまりした生涯学習センターのようなものがあると、もう少し学ぶ気力、発表があるから頑張れるということがありますので、その生涯学習センターのようなものが、できるといいという要望です。

町 長：ありがとうございます交差点のところが、危険ですね。利便性ということをしつかりご意見として承り、検討したいと思います。でも県の交通規制課などで、信号の枠が、500 万とかするので回ってこないかもしれません。しかし、意見としてしつかり現場も確認しながら、できるだけ対応したいと考えています。

それと、学ぶ場所が足りないということ。確かに合併して、ここしか集まれる場所がないということ。それについてはいろいろと今後、工夫しながら、やっていきたいと思っています。確かに、旧地区ごとあった町民会館がなくなって、なかなか集う場所がないし、学ぶ場所がない。ということで、しつかり検討させていただきながら、進めたいと思っています。ありがとうございます。

【町長説明事項についての意見】

町 民：いま、町長の話聞いて、何か私はとてもわくわくドキドキするような印象を受けました。

ただ財政の問題を、ちょっと緊迫したような財政の問題から、富士川町は何とかやっていけるんだなということを感じました。

ただ、聞いていると、町長のお話の中に、財政を主体に考えているから、今日のような説明になったんだとは思いますが、未来の富士川町では、健康で活動的で、車の運転ができて、どこへでも行ける人たちが生き生きと暮らしていける、そういうイメージです。富士川町の中には、障がい者の方もいらっしゃいますし、高齢者の方もいます。私も 72 歳ですが、身近にも、なかなか外へ出歩かなくて引きこもりがちの高齢者の方もいます。その中で、私達もいきいきサロンとか、100 歳体操とか、いろいろな場で一歩でも外に出るような、そういう働きかけをしています。私の仲間たちも、いろんな場所で誰もが集えるような場所作りをやっていますが、あまりにも健康な人たちの、語弊があるかもしれませんが、五体満足に生きてる人たちだけがいきいきと暮らすというイメージです。もっとこの町で暮らしている弱者の視点で、そういう人たちがどのように過ごせるか、居場所を作っていく。そういう発想で、構想も入れていただきたいと思います。

また、先ほど文化とかそういう部分をおっしゃっていた方もいますが、去年の秋に教育委員会と図書館の主催で、俵万智さんと江宮さんの対談がありました。本当に素敵なお話でした。江宮さんも富士川在住のとても素晴らしい作家さんです。そして富士川町には昨年夏に素晴らしい図書館もできました。私も度々夫とともに通っていますが、私も車の運転ができないから、夫が行かなければ私は行くことができません。あれだけの場所がありながら、行くことができない方たちも大勢います。図書館の司書さんたちも、あの素晴らしい企画をしてくださり、マスコミでも報道していましたが、今企画されている作家さんの展示会。先日も土曜日読み聞かせをやったりとかしていますので、車の運転できない人や高齢者でも通え、あれだけの文化施設を十分に活かせるような、そういう活用をぜひ考えていただきたい

い。健康で五体満足で、どこでも移動できるような人たちだけじゃなくて、様々な人たちがこの町で暮らしている、そういう人の視点も含めてぜひ考えていただきたいと思います。

町長：ありがとうございます。高齢者福祉の部分も、しっかりとやっていきたいと思っています。また、歴史文化、そういった文化力。この町からすごい多くの文化人や様々な方々が出ていくということ。それを次に伝えていきたいと思っていますし、そういった歴史的な部分もしっかりと勉強しながらやっていきます。

ですから、子供たちにお金をかけたいのです。かつての先人たちが、しっかりとその教育に力を注いでくれたからこそ、素晴らしい方々がこの町から出ていきました。我々の世代でその手を緩めてしまうと、次の世代に繋がっていかないので、そこは、発表できるタイミングになったらしていきたいと思っています。

そして高齢者など、車で乗せてきてもらわないと動けない。公共交通機関。いまデマンドバスやコミュニティバスなど、いろいろ走っていますが、それをもう1度見直して、次の新しい公共交通のあり方を考えるタイミングだと思っています。これも担当と話をしていますので、改めて次の機会もしくはちょっと時間がかかるかもしれませんが、準備でき次第、見直していきたいと思っています。ご意見ありがとうございます。

【ドッグラン、道の駅富士川について】

町民：町長の説明を聞き、かなり納得できましたが、質問があります。

このドッグラン、素晴らしい計画だと思いますが、経済効果1400万という中身が本当にいいのか悪いのか、そこがよくわかりません。

先ほども誰かがおっしゃったように、車がなければ、ここにも入れない。そういう町民がたくさんいらっしゃるの、そういうところに気を使っただけだと思います。

それから、前に道の駅でバウムクーヘンを作るときに、どのぐらいの利益が出るのかということと質問がされました。今、どのぐらい出てるのか、そういうところが全然伝わってこないの、それについてもちょっと知らせていただければいいと思います。

それから、意見をさせてください。文化関係ですが、各課の職員さんがすごい節約をして、一生懸命文化を向上するために努力されていることはわかっていますが、削減削減で本当に必要なことが、されないまま通り過ぎてしまっているという状況があります。その辺のところをまたよろしくお願ひしたいと思っています。

町長：ドッグランってご存知ですか。囲いの中で、愛犬家が犬を自由にすること、そこでいろいろコミュニティも生まれます。私も朝夕行ったりしています。そうすると、愛犬家の方々が、散歩に来て、いまはリードを外してということはできませんが、そういった観光客の受け皿もしっかりと大事ですが、町内の愛犬家の受け皿、今の時代に合った形の受け皿ということで、考えています。

先ほどお話ししたとおり、ペットツーリズムと言って、犬が貨物に乗せられるのは日本だけです。動物の環境がすごく劣悪です。ですから、世界的スタンダードな町づくりをするためには、人と動物の共生という部分もしっかりとやっていかなきゃいけない。その皮切りとして、行政の方だけが考えるのではなく、民間のペッツオーライさんという、動物との共生という部分で長けてる会社さんと連携しながら、様々な政策を先進事例をしっかりと研究しながら、この町に落とし込んでいく。それも予算をかけずに。

いま、やっているのはスタートということで、5月にプランができあがりますので、それをよく見ていただきながら、もう少し猶予をいただければ、必ずいいものを作ります。作ってよかったなというものに仕上げたいと思っています。

二次交通について、公共交通の足を、先ほどの答弁と重なりますが、より利便性の高いデマンド交通とか、そういったものをしっかりと考えていきたいと思っています。

そしてバウムクーヘンです。道の駅富士川アルラができて、チーズインなどいろいろ商品開発しています。そして普通のバウムクーヘンとかパッケージを少し簡素化したものにしたとか、シャインマスカットを利用した物を作ったり、頑張っで試行錯誤して、株式会社富士川がやっていますので、いま正確な数字が手元にないもの、いずれ公表できるようにしていきたいと思っています。

道の駅周辺が、年間7億円の売り上げがあるということが公表されています。かなり道の駅富士川には集客があって、経済効果が上がっている。それをいかに町内に還元できるかという仕掛けもしていきたいなと思います。

そして、職員の方がかなり事務事業を精査して頑張っているけど、本当に必要なものに手がかかっていないんじゃないかということですが、こういうご意見はより具体的な意見をいただきながら、次の政策に反映していきたいと思っていますので、また改めてぜひいろいろな形で町に意見をいただけますので、ぜひより具体的な意見をいただければと思います。

【ボランティアセンターや居場所の設立について】

町 民：町のことをいろいろ考えてくださり、壮大な計画で、いろいろ大変なことも乗り越えようとしてくださっていて、ありがたいと思います。私たち町民も、財政のことをすごく不安に思っていて勉強したり、議員さんに教えてもらったりしながら考えています。

そしてボランティア活動で、町の中で、例えば居場所がなかったりするんだったら居場所を作ろうという活動をこれから進めていくことが大切だと思っています。

そこで、キーワードが3つあると思うんですけども、まず一つは、防災。2つ目はボランティアセンター。3つ目は、それをどうやってその具体化していくのか。町の職員と町民が直接一緒に話し合っただけで予算化するというプロセス、これは非現実的ではないけれども、非常に先端的なやり方だと思います。

ボランティアセンターとか、居場所作りをどういうふうに進めていくのかを、町の職員と、それから有志の人たちが一緒に予算を考えるというプロセス。とてもわくわくするような、小さなささやかな試みかもしれないけれども、そして難しいかもしれないけれども、現実可能なことだと思います。

そういった形を経て、ボランティアが集まれるような居場所が作れば、これは防災に最も重要な役割を果たしていくことになると思います。

町 長：ボランティアとか防災ということ、居場所作りということでご提案いただきました。

活性化してる地域は、ボランティア活動が非常に活発です。勢いがある市町村を見てきましたが、やはり地域住民の方々がボランティアで動いてくれる。

またNPOの方々がすごく活動してるとか、NPOの組織がたくさんある地域が、地域の全体的な勢いというかレベルが高いと思っています。居場所作りとか、防災の切り口に繋がっていくということだと思いますので、そこもより具体的に今後いろいろ意見交換できたらと思っています。

【

町 民：町長は持続可能なまちづくりとおっしゃっていて、私もすごく共感しますが、持続可能についても私も毎日考えていますが、来年再来年とかそういうことではなくて、一説によりますと7世代先の人たちのことを考えて、今決断するっていうことがすごく大切だと言われています。

町長は住民の幸せがあって、外から見て町が魅力的になるとおっしゃっていたんですが、何となく町長が説明して下さったことは、外向きのことが多いと感じました。住民の幸せっていうところで、最後に人への投資とありますが、子育て支援とか、高齢者福祉の充実とか、一番町に必要なのはやはり安心して過ごせることだと思うんです。安心して子育てができて、安心して年をとることができる。この町にいれば安心だというように、みんなが思える町を作っていってもらいたい、作っていききたいと思います。

私はまだ、富士川町に来て2年半ぐらいですが、気になる部分が、空き家がすごく多いというところ。富士川街道沿いも、きつともっと活力があったときもあったんだと思いますが、空き店舗、シャッターがすごく目立つなと感じていて、そのあたりが充実してくると、町全体が活気づいたり、町民の力がみなぎってくる。町の人がお店で買い物をして、循環していくことが、すごく理想的だなと思っています。空き家とかあるものを活用したいとさっきおっしゃっていたので、そのあたりをどのように具体的に考えているのかお聞きしたいです。

町 長：まさに近きものの喜びの期待ということで、ここに住んでいる方々が、良い地域だなと思ってくれば、自然に人は集まってくるということで、安心して暮らしていけるという、これは大事なことです。いっぽう、綱渡りのような状態で暮らしてる方も多いと思います。一歩はずれてしまうと、セーフティネットもなく、なかなか生きていけない状態になってしまふ。そういった部分をなるべく取り除いていくということは、政治の責任として大事なことだと思います。またより具体的に考えていければと思っています。

あと空き家が非常に目立っています。富士川町は世帯は増えていますが、空き家も増えている。人口は減っているというような状況になっています。そんな中で空き家をどうやって利活用していくか、先進事例もいろいろ研究しています。

神山町では、商店街で若い人や地域の人たちが、例えば東京のこんなパスタ屋さんが欲しいとか、こういうヘアサロンが欲しいということ、空き家を埋めて、ピンポイントで東京のふるさと回帰支援センターなどに、東京の移住したいという方々、こういう技術を持ってる方々にアクセスして連れてきて、理想のまちづくりをするという、徳島の事例があります。様々な商店街の活性化策が成功している事例もあります。そういった事例を勉強しながら、空き家政策をやっていきたいです。

住むところについては、新築でなくてもいいと思います。空いてるところを、どうやって引き継いで、次に渡すかということなんです。非常に関東圏に引っ越した方々には難しい部分がありまして、お盆・正月には帰ってくるから、家族はみんな東京とかいろいろ散らばってるけど、そこでみんな会うからなかなか手放せないという。これが北海道とか青森とかになるともう完全に手放してもいいよというような話があるんですが、そこが難しいところでして、なかなか空き家バンク制度を町でもやっていますが、登録してくれない。なぜかという、そこはお仏壇をしまうことができないということがあり、そういったところをどうやって、すみ分けながら空き家を利活用していくかということが、課題だと思います。

アルベルゴ・ディフーズという街中ホテルがあり、イタリアの方で発祥ですが、古い町並みの空き家を、コンドミニウムホテルにしました。街中全体をホテルとして考えるという仕組みがあり、そういう空き家の利活用ができれば面白いだろうと夢はあるんですが、なかなかより具体的に進んでいくことができません。

空き家政策は考えていきたいと思っていますので、またぜひ引き続きご意見いただければと思います。

また、町で循環させるということ。地域経済もしっかり、食料もそうです。今食料自給率が日本は40%を切っている中で、有事の際に日本人は食べれなくなってしまうということです。でしたらこの町内だけでも、江戸時代の頃のように、この地域で、食、買い物とか循環できるような、こういったことが少しでもできたらいいと思っています。

【リバーサイドパーク構想について】

町 民：リバーサイドパーク構想の部分と子育て支援のところで、少し疑問に思ったところと、こうなればいいなというところがあったので、お話をさせてください。

まず、リバーサイドパーク構想ですが、ドッグランも併設でヘリポートは避難所にもなるということでもいいなと思ったんですが、観光にドッグランの人たちが来てほしいっていうのはわかりますが、スケートボードパークはどういう人たちを対象にしているのか、わからないなと思いました。ドッグランについては、以前議会のレポートを読むときに、無人でやっていくと書いてありましたが、そうなった際に、責任はどか取るのかなと疑問に思いました。

今はどちらかというと、観光に対して力を入れている様ですが、例えば公園であれば、町民が遊びに行けたり、私は子育て中の母で1歳と5歳の子供がいますが、リニアで森林研究所のところの公園がなくなってしまったので、例えばピクニックしながらなど、気軽に行ける公園がないので、そういうのも絡めて観光も町民も楽しめる場所づくりになったら、ママたちが安心して子育てできるようになるのではないかと。そのあたりはどのように思っているのか聞きたいです。

町 長：まずはドッグランのことで、今は親水公園全体が、当然無人でお散歩してもらったりとかその一環としてドッグランも同じような形です。

ですから当然、自己責任で公園も使っていただいているので、よほど例えば設備に不備があり、柵が倒れてきたとか、そういったことだと設置者、町の方の責任が問われるかもしれませんが。そういった安全基準をしっかり守っている中で、中での何かトラブルというのは自己責任の中でやっていただければと思います。

あとスケボーパークですが、実は潜在的にスケボーをやりたい。オリンピックを見て憧れているという方々で、町内の子供たちが結構います。スケボーパークについては、そういった競技という部分も見越した形で、ものを作っていきたいと思っています。

いきいきスポーツ公園で、芝生が周りにでき、体力づくりのための健康遊具を設置します。こちらにも芝生があります。そこは出入り自由ですから、あの辺をぜひ散歩などに使ってもらってもいいですし、実は町内には38の公園があります。知らないですよ。遊具があるのとなない所とありますが、そこをみんなに知ってもらうような仕掛け、例えば38の公園を一つずつ周るスタンプラリーをすとか、今ある公園をどうやって楽しんでいただくかということと、一番大きい公園が今度、この河川敷のグラウンドの横に行きますので、その辺を活用してもらいながら、楽しんでいただきたいと思います。

リニアのトンネル工事現場にあった公園が、いま壊してしまいましたが、リニアが完成したら、公園がまたできるような形になりますので、もう少しお待ちいただければまたあの公園は復活します。

この町にはすごく良い観光資源があると思っていますし、それを利活用とかもっと発信するべきだと思っていますし、県外から来た方々は、勿体ないと思う。だからそこを磨いて輝かせていくということが大事ですが、一方で、住んでいる方々がそれで観光客ばかりで、動きが取れないとか、住民の方々がオーバーツーリズムになってしまって苦勞するということがあってもいけない。適度なバランスの中で、観光客と住民の方々が共存できるようなことをやっていきたい。

やはりこの資源を生かして発信することはすごく大事なことですし、地域経済、例えばおしるこ売りましようとか、カフェ作りましようとか、人が来てくれないとなかなか中山間地域でも、生業として成り立ってこないと思います。若干でも人が来てくれることによって様々な仕事が、生まれてくるんじゃないかと思っています。

【塩の華について】

町 民：富士川クラフトパークに行く途中にある、塩の華の収益を教えてください。

町 長：塩の華ですが、歴史人物館としてオープンしました。今集客が2000人（※）を超えたりとか、順調に歴史人物館としての役割は担っている状況です。

ただそこが、国の補助金を活用しているものですから、物を売ったりとか収益を上げることができません。ですから中の案内がボランティアスタッフとしてっていうことで、地域の方々がボランティアでいろいろ案内をしてもらってるような状況です。

ですから収益事業になりません。（※）正しくは1万人です。

町 民：現状の維持費は。

町 長：維持費は年間およそ5~600万円ぐらいかかるっていると思います。

町 民：これからもずっとその状態で行くんですか。

町 長：そうなんです。実は、これ言い訳みたいになりますが、就任したときにはもうプロジェクトが進んでおり、なかなか建設ストップっていうわけにはいかなかったものから、これまでどおり建設し、予定どおり、動いています。私もお土産を売ったり、いろいろ物販をして、多少でも収益上げたらどうだということも考えたんですが、国の補助金を活用したからできないようです。

ただ、駐車場エリアはOKらしいんです。ですからフリーマーケットとかやってるんですが、その辺で少しでも、収益ができるような仕掛けもしなきゃいけないのかなと思っています。ただ、歴史人物館とか文化芸術の分野ですから、そこであまりお金を稼ぐというようなことが、よろしくないという意見もあります。やはり今の時代、事業としてやるの

であれば、ある程度収益も見込まれ込むような形で、事業をしなければいけない時代だと思っていますので、そこはちょっと工夫をして、今後展開していきたいと思っています。

司 会：先ほどの利用者数や維持管理費など、担当に確認する中で、また後日お示ししたいと思いません。

【防災訓練について】

町 民：能登半島地震で、いろいろな動画やコミュニティで皆さんの目に見えてきていると思います。

その防災の関係で、お話をさせていただきたいと思っています。私は防災士をしておりますが、今の体制ではどうかなと気持ちがありました。

それは、防災訓練をする中で、消火栓の水を出しての放水を町の方で禁止している。遠慮じゃなくて禁止ということで、私は捉えております。色々な場面で、防災の関係で、講演や訓練、指導をしてる中で、町に確認をさせていただきました。

ある時は、町長の部屋に行き、消火栓の水を出す訓練をなぜ禁止してるんですかと。ただ、そのときの町長は、そんなことはないというはっきり返事をいただきました。

その後、防災交通課長、上下水道課長を交えて、話をさせていただきました。そして、その答えは水道水が濁るから、ということでした。確かに水道水が濁るということは、各町でも頭を抱えてる問題です。そういう中で、我が町だけは、それをきっぱり禁止だと。それによって訓練は体験すればいいのかといたら、消防団が、河川等へ行って放水するので、そこで体験してくれという話です。

私はもう何十年もこの話をしています。全く進歩がない。あるいはそれに代わるものがあればいいと思っていました。防災の日の各地区で防災訓練でも、消火栓から水を出さない、空走法をやっています。なぜ水を出さないのかというと、消防団員の方も困ってしまうと。町の意向で水を出さないでくれということで、本当に恰好だけ見せてそれで終わりです。

果たしてその今までの訓練で本当にいいのか。ただ水が濁るから困るという話で、町の方は考えてるかもしれません。

確かに、どこでどういう形でわからない中で苦情が来たとすれば、私が逆の立場でもやめませんと言いたくなるのは同じだと思います。しかし、この禁止してるのは富士川町だけです。

他の市町村は、みんな頭を抱えながらも、一つのルールを作っています。というのは、富士川町でも、簡易水道給水条例、上水道条例、そこには消火栓を使う場合には、町に届け出てという一文がありますが、届出制度などルールを作ってもらえれば、どこが濁るとかそういった問題も明確になるとと思いますので、検討をさせていただきたいと思っています。

町 長：まさに、お正月 2 日に起きたあの全日空の事故羽田の事故で、訓練を重ねていたから人命が救助できたといえますか、まさにあの奇跡だという言葉、あれは本当に訓練のたまものですし、様々な場面で訓練をしないことは緊急時にはできないということもあります。

水を出す訓練も必要だと思います。ただ一方で、その生活の飲料水等連動してる部分もあって、私は承知はしていませんが、不具合もあるのかもしれません。ですから、その訓練が滞らないような形で、いただいたご意見も踏まえながら、検討していきたいと思っています。実践に近い訓練ができないというのは確かによくないと思いますので、そこは整理をしたいと思います。

【少子高齢化、県営・町営住宅について】

町 民：リバーサイドのパークのご説明をいただき、いろいろな部分でお子様から大人のことまで非常に努力をなさっているなというのが、本当に素晴らしい楽しいまち作りに一歩進んでるなと感じています。

ただその中で、やはりこれだけの構想で、本当にバラ色の町ができるように実行ができれば非常に素晴らしい、県下一になるのではないかと感じておりますが、ただ一つ二つ挙げると、まず、これだけのまち作りの中で、どうやって今の国の課題、少子高齢化、本当

に山梨県人も非常に80万人をわってしまった中で、町として、これから人を増やすにはどうしたらいいか、方向性やお考えがあればお聞きしたい。

こうしてみると、非常にリバーサイドパーク構想を聞きながら、現状、例えば鰻沢地区の公園はほとんど手付かずです。あのままでは非常にもったいないですし、県営住宅や町の住宅が非常に老朽化していて、どのような方向性をお持ちなのか。現実はまだそこまでいたっていないということであれば、ぜひその辺りの方向性を聞かせていただいて、これからのまち全体が良くなればいいわけです。ただ一つ一つの地区を考えると、もうちょっと力を入れてほしいなという部分が南の方にありますので、ぜひその辺りをお聞かせいただければと思います。

町長：どうやって人を増やしていくか政策を話せということですから、やはり子育て環境をまず充実させるということが非常に大事であると思っています。お母さん方は、子育てまた保育の環境でできたコミュニティが、次の小学校入学前につながりますし、子育て段階で、保育所、保育環境が、他の町とかがいいということであれば、そっちに行ってしまう。例えば昭和町とか利便性がいいところに行ってしまう。しかしながら、富士川町で子育てすることによって、すごくメリットがあるよということであれば、この町で育てていただける。まずは生まれてきた子供たちが、この町で教育を受ける入口を作っていくということ、これが一つのキーワードだと思います。

そして住む場所、そして働くところです。そこがやはり連動していかないとなかなか難しいと思っています。でも企業誘致といっても難しいですし、用地もなかなかないところ。まずはその子育てのところをやりながら、働く場所を確保していくような政策をしていきたいと思っています。

住む場所ということで、住宅が老朽化しているということです。これも、このまま木造住宅で何年も経っているものをそのまま放置するわけにはいきません。やはり建て直すとか、新しくリニューアルするには相当なお金がかかりますので、そこでどういう財源を捻出するかということが一番難しいところになってます。

先ほど話したとおり、非常に財政が逼迫している中で、そこで何億というお金をかけて、建て直すというのは至難の技ですが、方法はあります。国の補助金をいただきながら、ふるさと納税、一般財源を使わずに、ふるさと納税の財源を使って、それで抱き合わせで半分半分で、様々な事業を展開するというやり方が、残された道なのかなと思っています。まずは様々なことをやるには、財源をどうするかというところを皆さんに提示しながら、できるところだけ、できるところから順にやっていきたいと思っています。

そして鰻沢地区、南の方が非常に力が入ってないぞというご指摘だと思います。しっかりとその辺も、やっていきたいと思っていますし、公園も勿体ないなと思っています。ですから、ここ一帯でリバーサイドパーク計画として使うことによって、この公園も生きてくるのかなと思っています。またぜひ長い目で見ていただければと思います。

【区や組について】

町民：先日、組長会を行いました。その中で、組からみんな抜けていきます。今年で3人抜けました。これがすごいネックになっていて、2年ぐらい前に組が一つ潰れました。今年も少なくとも3人ぐらいの組があったが、そこも組からは抜けさせてほしいということになり、私たちもいろいろといえませんが。

ですので、町の方から、できるだけ区に入ってもらいたいと言ってもらいたいと思います。町民が助け合いの心が薄れているのかなという感じがしていますので、皆さんで助け合いの気持ちを持ち、町の利益になるようにしたいと思っていますので、要望します。

町長：やはり、一番の基礎の隣組。何か困ったとき、有事の際は、防災にも非常に隣組が必要になってきます。3日間は行政の手が入らないとよく言われています。

一番大事なのは、自助公助そして近所だ。共に助ける、そして近所ということで、やはり災害とかが起きないとそのありがたみはわからないと思います。

また、役が非常に重荷になっているということです。実は組編成は、各区の区長さんや区議会議員に裁量権があります。例えば区や組の合併など、そういった部分は各区長さんにおまかせしている部分です。

そこを町がどうしろとは言えませんが、適正規模で3年に1回組長が周ってくるとか、毎年いろいろ役割があるという状況だと、区に入ってもらいたい若者が入ってくれないという状況があります。そういった区の運営については、やはり区の自治権の中で、動いていただければと思いますし、その中で町が何かできることがあったら相談しながら、当然応援をしていくつもりでいます。

なかなか難しい問題です。でも何かあったときはやはり隣組が非常に必要です。そこを強化していきたい、そういう思いは一緒なので、解決策を一緒に考えていけたらと思っています。

【ペットツーリズム、若者の政治参加について】

町 民：昨日もいのちのごはんの活動で、ほっとミーティングに対応いただきましてありがとうございます。連日こうして町長とお話ができ、本当に町民と向き合いながら、町民と一緒にまち作りをしていくっていう姿勢が見え、とても頼もしく思います。

大きく2つ質問があります。

まず1つはドッグランを含むペットツーリズムの質問と、もう1つは若者がこういう政治に関心が薄いということです。

ドッグラン、リバーサイド構想の場所は、ハザードマップを見ると真っ赤です。議員さんにお話を伺ったところ、地震を想定して、災害の拠点にするとか、大雨のときは想定していませんとのことですが、これだけ気候変動があって、異常気象が続いていて、保水力を失っている森がすごくたくさんあって、雨が降ったら平林は川が茶色になって増水し、避難指示が出るような状況なので、その場所で川が氾濫しないということはないと思います。その復旧に、またお金がかかってくる思います。

また、ペットツーリズムは、さきほど町の活性化で、町中全体という言葉をおっしゃっていましたが、私も事業者説明会に出席し、ペットツーリズムを富士川町で成功させるには、町中全体の事業者が協力をして、富士川町はペットで行けるまちというアピールが必要だと思い、その計画はあるんですかと質問させていただいたところ、計画は今のところありませんという回答を、担当課長からいただきました。

5年後に何事業者、10年後に何事業者登録を目標にしていて、何年後にはペットツーリズムでこういう町を目指していますっていうような説明だったら、すごく納得して協力しようと思いますが、その計画のないペットツーリズムの説明会だったので、これは参加しなくてもいいのかなと思いました。ペットアレルギーの方もいますし、人間が優先だと思いますが、その計画について疑問に思いました。

もう1つ、この会場を見ると、若者の参加が非常に少ないと思います。

自民党の政治資金の問題、そして、あの長崎知事もその記載漏れがあったというニュースがあって、このままでは若者の政治不信は進むばかりで、政治に期待もしないし、自分が何言ったって、意見なんて聞いてもらえないと思ってしまうのではないかなと思います。私は母なので、未来のある社会を手渡したいという思いで、こういう機会に出席させていただいてますが、例えば、これだけインターネットが発達しているので、今回もオンラインで若者もZoomで参加でき、来たいけどこれないとか、そういうところに行くのはという高校生も、町長の話の片耳で聞いてたりとか、という若いうちの町の町作りに参加も、Zoomなどを使えば可能だと思います。直接意見は言えなくても、ちゃんと町長に質問したり、もう少し若い人たちが政治と暮らしが繋がっていて、富士川町は、こういう若い人たちに向けて一緒にまち作りをしたいというアピールをしていただけたらと思います。それについて町長の考えをお伺いします。

町 長：まずペットツーリズムの件です。登録の事業者が少ないとか、計画がないということですが、やはり、ペットを入れていいと言ってくれる事業者が、手を挙げてくれることを望んでいるということです。

ですから、富士川町はこれで行くから駄目だと言わないでくれっていう、やり方ではやりたくなく、いやうちはこういうスペースもあるから、またあのペットと一般の方を分け

ることができるから、それでお客さん来てくれるんだったら登録するよと言って手を挙げてくれる方々から、まずはやっていきたいと思っています。

その中で、データを取らせていただきながら、次の展開も考えていきたいと思っています。

また、復旧のところでは、親水公園は2度ほど、富士川の氾濫で水が来たことがあります。ですからあそこに重要な施設は当然作るつもりはなかったんです。

ドッグランですから、囲いを作るだけです。その囲いも、もし水が来るときは、クレーンで撤去できる計画を作っています。ですから他の施設と同じような形で、そこにフェンスができ、ランニングコストがあまりかからない形で活用していくことで捉えていただければなと思っています。

親水公園だから、何年かに1回、水がつくというのは、想定しています。ですから、そこをしっかりと使っていこうという考えです。

また、若者の政治離れということです。本来、政治が全てで、政治が関わっています。皆さんの生活の隅々に。そこに若者が参加しないというのは、私も触れているところですし、私も政治の世界を志し、我々の地域は我々で作っていかうという声を上げたいという思いが最初のきっかけでした。ですから、若者の方々にもっと政治で変わるんだよ、政治参加することによって変わるんだよということを、成功体験みたいなものを、提言してほしいと思っています。富士川町は、若者の政治参加がすごい町にできたらなと思っています。

オンラインとかZoom参加をすべきだということですが、私もちょっと頭が固くなっているのかな、すごくいいアイデアだと思っているので、環境が許すのであれば、次はチャレンジしてみたいと思っています。

そして、今回私自身のSNSでも発信させていただいたり、町もLINEを活用し、今回のことは、プッシュ型でやらせてもらいました。またあらゆるツールを使いながら、広報活動を頑張っていきたいと思っています。

【情報発信方法について】

町 民：今回聞いていて、明るい未来がちょっとだけ見えたかなという感じはしました。

構想だけではなく、どれだけ実行できるかということが、やはり一番単純に大事なところだと思いますが、この中で、リバーサイドパークで水害対策は何かやってるのかなと思いましたが、さきほどの回答で大丈夫です。

子育て支援No.1を目指してついでということで、私たち子育てしていたときになかったことが、これだけのことがすごくたくさんあって、この時代に子育てできるのはいいなと思いました。若い人はSNSとかやっているから、そういう情報を聞くことも多いとは思いますが、こういったことを知らない人に、告知の仕方や、情報の発信の仕方を変え、みんなにわかるような、高齢者はSNSなどやってない人が多いと思いますが、そういう方にもイベントなどがわかるような発信の仕方をお願いしたいと思っています。

町 長：ありがとうございます。告知の仕方をしっかりしろということで、今回工夫をしたのは、この青い枠で囲って、子育て支援策でこれだけやってるいるということが、パッと見えるようにしました。

こうやって見える化することによって、こういうことをやっていたんだ、これすごいねって思ってくれます。

例えば移住政策や住宅政策などを力を入れてやっています。担当課長とも話し、こういう素晴らしい町でやっている政策が見える化して、どんどん発信していこうと考えていますので、今後、ご指摘いただいたように告知の仕方を工夫しながら、ぱっと見てわかるように、せっかくの制度ですので、どんどん利用していただき、みんなが活用できるような工夫をしていきたいと思っています。

司 会：本日は多くの意見をいただき、ありがとうございました。

今回いただいた意見要望等につきましては、役場内で共有する中で、検討を進めていきたいと考えています。

また2月10日以降、区で随時開催するまち作りワークショップという形で、第3次総合計画策定にあたり、今後のまち作りの方向性や課題を検討を考えていく中で、また地域に赴きながら皆様のご意見を伺う機会を設けさせていただきます。ご協力をお願いします。本日は、ご参加いただきありがとうございました。